

米軍オスプレイ次期定期機体整備会社の入札に係る状況

- 2017年2月以降、株式会社SUBARUが木更津駐屯地において、米海兵隊オスプレイの定期機体整備を実施中です。これまで2機整備を完了し、現在3機目と4機目が整備中です。
- SUBARUの契約は2020年に整備入りする機体までとなっており、米軍は2021年以降の整備について実施企業を募集するため、5月8日に提案要求を公表しました。今後、入札手続きが進められ、本年秋頃に実施企業が選定される見込みです。
- 同提案要求においては、事業の基本的な内容は今期と同様ですが、同時に整備する機体数が最大7機（前回は3～4機）に増える予定です。

今後の対応について

- 日米共通整備基盤は後方分野における日米協力の象徴であり、陸自オスプレイ整備の効率化、沖縄負担軽減策の継続の観点からも、2021年以降も木更津駐屯地において事業が継続して行われることが重要と考えています。
- 次期事業期間においても我が国企業に引き続き木更津駐屯地の格納庫を使用（※）させるとともに、米側の整備需要増（最大同時7機整備）及び陸自オスプレイ整備需要（同時3機整備）に対応するため、同駐屯地に新しく格納庫を整備したいと考えています。

※ 整備事業実施のために木更津駐屯地格納庫の使用を希望する国内企業を今後公募予定

5月8日付提案要求書に米軍が記載した主要事項

- 主な整備対象は普天間に配備された24機のMV-22
- 2023年以降、米海軍CMV-22の整備も想定
- 標準的な1機当たり整備期間は約1年4ヵ月を想定
- 契約期間は最大9.5年
- 同時に最大7機整備入り
- 海外への出張整備を企業に打診する可能性がある
- 格納庫は企業が用意することが基本。整備地点は沖縄から1000マイル圏内を想定
- 将来的に米軍の格納庫を貸与する可能性もある
- 複数社選定した場合は整備入り機体ごとに、どの企業に実施させるか米側が判断